

## 2. 津田永忠とゆかりの人物



藩主・池田光政(1609-1682)  
(林原美術館所蔵)

永忠も光政の意図をよく理解して職務に努めました。

儒学を信奉し、「仁」に基づいた藩政を展開、儒学者の登用や新田開発、農村整備・治水対策から、藩学校、閑谷学校を創設するなど、藩政の基礎を確立しました。

また、永忠の才能を見だし重用し、



藩主・池田綱政(1638-1714)  
(林原美術館所蔵)

永忠を重用し、大規模な新田開発、治水事業など藩政と文化の振興に努めました。

光政の嫡男。父とは対照的に儒学をあまり好まず、和歌・能楽などを好んだ文化人で、岡山後樂園の造営、また神仏への信仰も厚く池田家の菩提寺である曹源寺を創建しました。

また、父に引き続



熊沢蕃山(1619-1691)

陽明学者で、岡山藩主光政に仕え、民に対し恵みある政治を志しています。治水に対し優れた見識を持ち、治水の前提としての山林保護、治山の理論を唱えています。

また、川上で山林

### 田坂与七郎・近藤七助

普請奉行として、永忠の手がけた藩営事業には殆ど関係しています。後年、永忠は沖新田に新たな樋門を設置する時に、沖新田を熟知している田坂・近藤に普請の役を任命しなかったことについて意見を述べています。それほどに永忠は二人に全幅の信頼を寄せていたことがうかがえます。



藩士・津田永忠(1640-1707)

### 河内屋治兵衛

和意谷墓所の造営のため石塔石工として永忠によって大坂から招かれました。この造営によって石工として技術が高く評価され、岡山城下に屋敷を与えられ、帯刀も許されていました。

治水事業や新田開発、吉備津彦神社の造営など永忠の土木事業には治兵衛を棟梁とする大坂石工集団が常に関わっていたとされます。